

## オートロジェル システムによる治療に期待する効果

決められた治療法を行っても改善しない創傷<sup>※</sup>に対して、オートロジェル システムを使った治療を行うことができます。PRPにより創傷の治癒の促進を期待します。  
※例えば、糖尿病性潰瘍、静脈うっ滞性潰瘍、褥瘡(じょくそう:床ずれ)などの創傷が挙げられます。

## PRP治療中の注意点

- 安静** PRPゲルは1回につき24時間以上塗布したままにします。PRPゲルの塗布部位に強い力がかからないよう、医師の指示に沿って安静を保ってください。
- 保護** PRPゲルの乾燥、剥がれを防ぐために、PRPゲルの上から被覆材(ガーゼ等)を使って保護します。日常生活(入浴時等)において、被覆材が濡れたり、汚れたりしないようご注意ください。
- 観察** 治療期間中は、腫れ、強い痛み、多量の滲出液(にじみ出る体液)といった異常がないか、患部の変化に注意してください。

### 治療の期間

治療期間は、創傷の状態や経過によって異なりますが、最長で8週間程度が目安となります。詳細な治療計画については、医師にご確認・ご相談ください。

( )様の注意事項

わからないことがあった場合、被覆材等の濡れ・汚れや患部の変化(強い痛み)を感じた場合は、ただちに病院へ連絡してください。

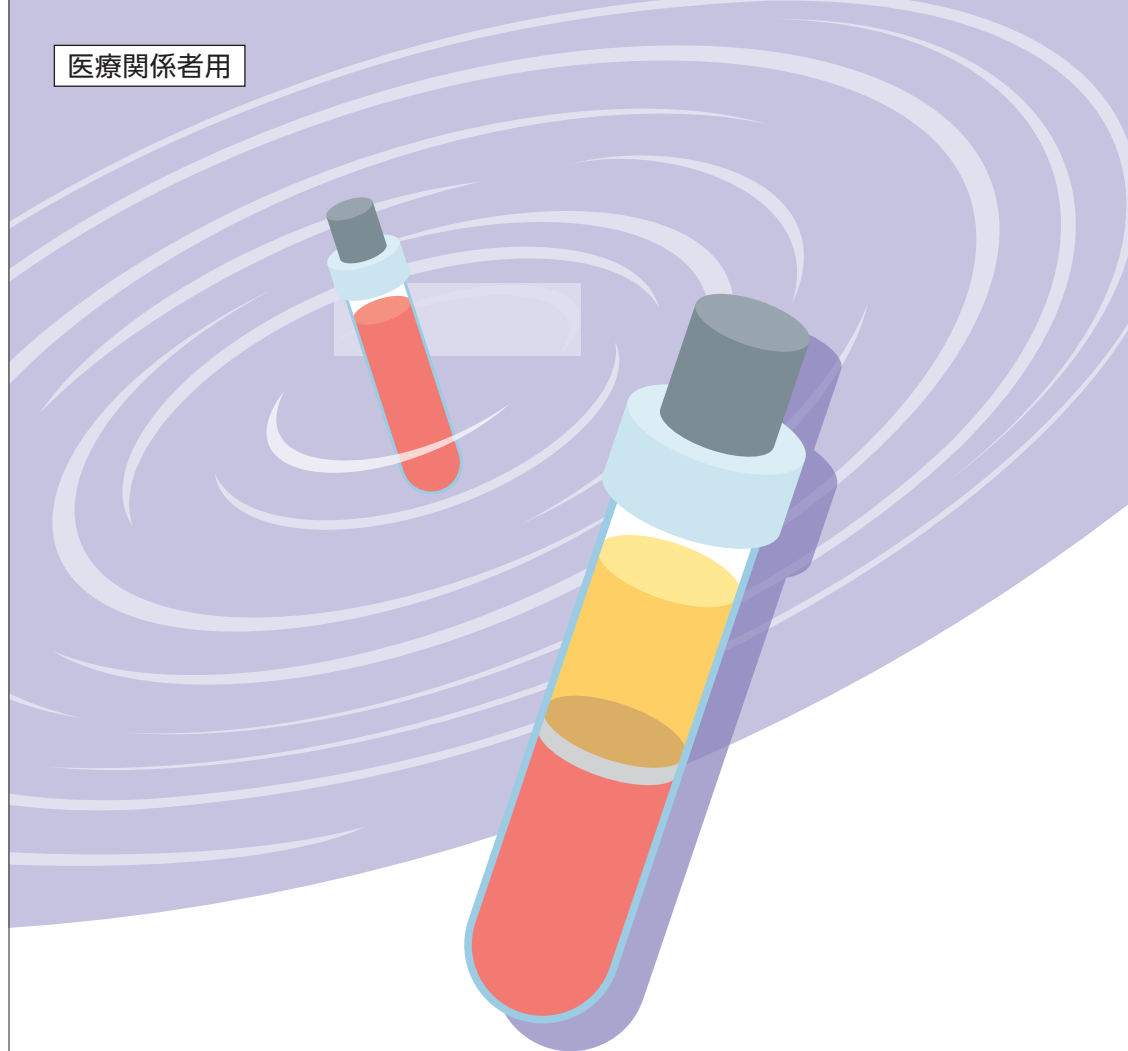


ロート製薬株式会社

■本社/〒544-8666 大阪府大阪市生野区糺西1-8-1  
■製品に関するお問い合わせ TEL:0120-610-181

H21860  
2025年9月作成

医療関係者用



患者様 説明用資材

## 多血小板血漿 (PRP) 療法

監修 大浦 紀彦 先生 杏林大学医学部 形成外科 教授

## 多血小板血漿 (Platelet-Rich Plasma)※とは?

血液から血小板という成分を取り出して濃縮したものです。  
PRPには傷(創傷)を治す成長因子が豊富に含まれています。

※以下、PRP

## PRP療法はどのような症状に使用されてきたか

様々な分野で広がりつつある再生医療の1つです。整形外科領域では腱・靭帯の再生、変形性膝関節症、歯科領域では歯周組織の再生、形成外科・皮膚科領域では難治性皮膚潰瘍、脱毛治療といった幅広い領域でその可能性が検討されています。創傷治療の分野にフォーカスすると、日本では2020年に「トラフェルミン(遺伝子組換え)を用いた治療又は局所陰圧閉鎖処置(既存治療)を28日以上行っても効果が得られない難治性皮膚潰瘍」に対するPRP治療が保険収載され、創傷治療の選択肢に加わってきています。

創傷治療におけるPRP治療は海外でも行われています。オートロジェル システムと同一のコンセプトのPRP調製機器はアメリカでも使用されており、難治性皮膚潰瘍の治療実績があります。

## オートロジェル システムについて

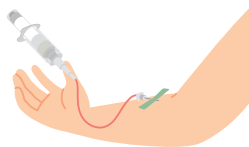
オートロジェル システムは、患者さんご自身の血液からPRPを取り出してPRPゲルを作り、患部に塗布して治療する医療機器キットです。

### オートロジェル システムによるPRP治療の流れ

Step

#### 1 血液の採取

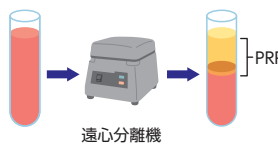
患者さんから血液を採取します



Step

#### 2 PRPの分離・抽出

採取した血液を遠心分離しPRPを分離・抽出します

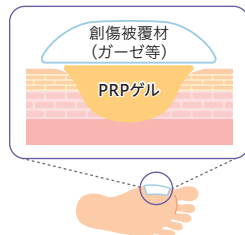


成長因子  
TGF- $\beta$ , EGF, PDGF, VEGF など

Step

#### 3 PRPゲルの塗布

薬剤によりゲル化したPRPを対象の患部に塗布します

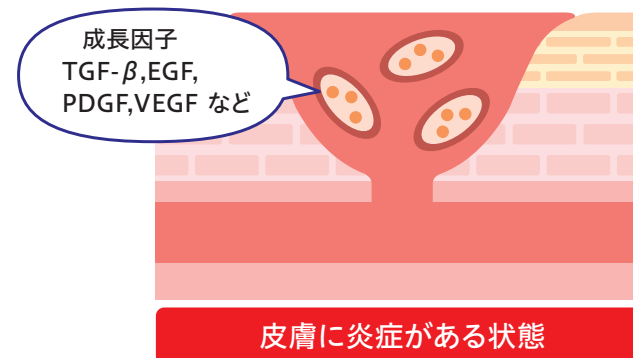


## オートロジェル システムによる多血小板血漿 (PRP) 療法とは

患者さんご自身の血液から作ったPRPを使って治療する方法です。

Point

血液中の血小板に含まれる成長因子により治りにくい創傷の治癒を促進します



正常な創傷治癒過程において、炎症がある組織や出血をともなった創傷では、血小板がその部位に動員されます。そして血小板の中にある成長因子が放出され、創傷治癒を促進します。

PRPは、その血小板を多く含む血漿のことをいいます。実際にPRPを使用する際には、血小板の中の成長因子が放出されるように、トロンビン・カルシウム等を混ぜてゲル化して使用します。

